

目指す 学校像	(ア) 総合学科の学びを活かし、生徒が夢を持って、自らの進路実現に向けて充実した高校生活を送れる学校		
	(イ) 基礎学力の定着・向上、基本的生活習慣の確立が図れ、社会的・職業的自立に必要な能力や態度が育める学校		
	(ウ) 恵まれた教育資源を活かした地域連携・地域貢献活動を推進し、生徒の自尊感情や前向きな姿勢が培える学校		
	(エ) 環境教育や環境学習の機会を充実し、環境に対する豊かな感受性と熱意、見識を持つ「人づくり」に取り組む学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
学習活動に意欲的に取り組む生徒が増えてきた。一方で、学習意欲が乏しい生徒もいるため、きめ細かな教育活動を展開し生徒の基礎学力向上に努めたい。また、授業参観などの校内研修を充実し、わかる授業の工夫を図りたい。	ア 学力の向上を図る。	①授業時間数と授業時間の確保を図る。 ②わかる授業を展開する。 ③授業方法に関する研究を推進し、学習に取り組む意識を高める工夫をする。	B
遅刻者数に課題があることから、多角的な指導を展開し生活習慣の確立を図ることができた。自己指導能力の育成に課題がある。	イ 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、自己指導能力の育成を図る。	④遅刻・服装頭髪指導の定着を図る。 ⑤挨拶の励行、規則の遵守やマナーの向上を推進する。	A
スクールカウンセラーの効果的な活用を図り、個に応じた指導に活かす。	ウ 教育相談の充実を図る。	⑥生徒・保護者の悩みを解決し、有意義な学校生活に繋がるよう、教育相談の充実を図る。	A
部活動に意欲的に参加し、活動が継続できるよう一層の努力と工夫を重ねたい。また、ボランティア等の奉仕活動も取り入れ活性化を図りたい。	エ 特別活動の活性化を図る。	⑦部活動に意欲的に取り組み、継続した活動を行う。 ⑧HR活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。	A
産業社会と人間の授業やインターンシップを通して望ましい職業観や勤労観の養成に努めた。一層の充実を図りたい。	オ 進路指導の充実を図る。	⑨個別面談を充実させ、進路意識を高め生徒の進路希望の実現を図る。 ⑩総合学科の学習やインターンシップの実施により、進路意識の高揚を図る。	B
公開講座として幼稚園児・保育園児を対象とした体験学習を実施し、地域貢献を図るとともに地域からの信頼確保に努めた。今後も継続し地域との連携・交流を深めたい。	カ 地域との連携・交流の推進を図る。	⑪農業施設・設備を生かして、開放講座などの実施により、地域からの信頼を確保する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	地域や生徒の実態を把握し、特色ある教育課程の編成に努める。	中学校・地域との連携を図る。	⑪	A	A 本校や中学校での説明会を行い、本校の特色や実績を周知することができた。魅力をさらに伝えていくために出前授業等の充実を図りたい。
		生徒の多様な進路に応じた教育活動の計画を立てる。	⑩	B	
		本校の将来像を見据えた教育課程の編成を検討する。	①③	A	
	魅力ある学校生活を目指しながら、授業の量的確保と質的充実を図る。	行事等の能率的な運営を図る。	⑧	B	B 本年度は教務部への授業填補依頼数が減少した。引き続き授業変更での対応を呼びかけていく。また、次年度は曜日ごとの授業日数に偏りが生じることが予想されるので、振替等の対応を確実にしていきたい。
		授業終始時刻の厳守に努める。	①	B	
	自主的学習意欲を高める効果的な学習指導法の研究実践を図る。	出張・年休等における授業の確保(振替)に努める。	①	A	B 授業の相互参観等、授業改善のための方策を模索し続けていきたい。そのために各教科の課題をよく把握し、それに沿った提案をすることで理解を得ていきたい。
		各教科間の連携を密にし、生徒の実態に即した年間指導計画と、その計画に沿った学習指導ができるように努める。	①②	B	
	系列の特色を生かし、魅力ある授業及び体験学習を展開し、学習意欲の向上を図る。	「わかる授業」の実践及び授業の創意工夫ができるように研究授業の実施に努める。	①②③	B	A 赤点保持者に対する定期考査前の課外指導を実施することができた。次年度は教員間の理解をさらに深く得て、より効果的なものに改良していきたい。
		学習意欲の低い生徒・学力の低い生徒への計画的な指導を行う。	①②③	A	
	職員研修を推進し、資質の向上を図る。	進路実現のため資格取得などの具体的目標を設定し、学習に取り込む姿勢や学習意欲を高める指導の工夫改善を図る。	①②③	B	A 学力向上推進事業において、各教科の抱える問題点等が分かっていたので、次年度は解決のための方策を全教員で考えていきたい。
研修を実施し、その成果や情報を教員間で共有できるように努める。		③	A		

生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	週番活動および、さわやかマナーアップ運動を展開し、あいさつの励行を図る。	④⑤	A	A	細やかな指導を継続し、人としての在り方生き方について理解させ、自己指導能力の向上に努める。	
		服装頭髪指導を定期的に行い、身嗜みの徹底を図る。	④	A			
	交通安全教育の充実を図る。	交通立哨指導を秋の交通安全運動期間と毎月交通安全の日に実施し、事故防止に努める。	⑤	A	A	定期的な自転車点検等の交通安全教育を充実させ、事故の危険性について理解を深めさせる。また、保護者の協力を得て家庭における指導・協力が得られるよう努める。	
		自転車点検を定期的に行い、不良箇所の改善と安全運転を呼びかける。	⑤	A			
		原付通学者に対して許可試験と実技講習会を実施し、交通ルールとマナーの確認および、運転技術の向上を図る。	⑤	A			
		交通講話を開催し、生徒の安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。	⑤	A			
	教育相談を充実し、生徒理解を深める。	二者面談を行い、生活状況把握や悩み事等の相談の機会を持ち、生徒理解に努める。	⑥	B	A	二者面談等を適宜行い、生徒理解に努めるとともに、生徒の変化に対し気づく学校全体の体制を構築する。また、常に保護者との連携を図り、学校と家庭が共同することで個に応じた指導に努める。	
		三者面談を行い、家庭との連携を深める。	⑥	A			
		スクールカウンセラーを活用し、生徒の心の悩みを解決する。	⑥	A			
		生徒指導研修会を行い、生徒理解に基づいた指導方法の確立を図る。	⑥	A			
	問題行動の未然防止に努める。	校内巡回指導を行い、生徒の状況把握と問題行動の未然防止に努める。	④⑤	A	A	小さな変化に気づくような教員と生徒の人間関係づくりに努め、問題行動の未然防止を図る。不審者情報を速やかに伝達し、危機管理意識の高揚を高めさせる。	
		校外巡回指導を行うとともに、関係機関と連携し問題行動の未然防止に努める。	④⑤	A			
		ケータイ・ネット安全利用についての講習会を開催し、家庭での携帯電話利用に関するルールづくりやフィルタリングの活用を図る。	⑤	A			
		不審者や校外での問題発生時に迅速に対応できるよう努める。	⑤	B			
	いじめの実態把握及びいじめに対する措置	未然防止について	生徒の自己指導能力を高めることができた。	⑤	A	A	いじめ防止基本方針の適切な運用を図る。また、いじめ防止対策会議において未然防止と早期発見・解決につながるよう取り組む。地域との連携に向け、良好な関係が構築されるよう開かれた学校を意識した運営に努める。自己有用感を高めさせるために、学校行事やホームルーム活動において、個々の生徒に対する配慮のもと、居場所づくりに努め、役割を理解させる。
			生徒の自己有用感を高めることができた。	⑤	B		
			生徒の規範意識を高めることができた。	⑤	A		
			生徒が教職員と相談しやすい関係を構築できた。	⑤	A		
			情報モラル教育を推進できた。	⑤	A		
		早期発見について	いじめの早期発見に努めることができた。	⑥	A		
保護者から学校へ相談できる関係が構築できた。			⑥	A			
複数の相談窓口を生徒や保護者へ周知できた			⑥	B			
早期解消について		被害者の心のケアができた。	⑥	A			
		適切にいじめの事実を確認できた。	⑥	A			
		加害者に対しては、いじめをやめさせることができた。	⑥	A			
		重大事態の調査をし、県教育委員会を通じて知事へ報告できた。（重大事態があった場合）	⑥				
関係機関との連携について		インターネットを通じて行われるいじめの対応ができた。	⑥	A			
		保護者と密接に連絡を取り合うことができた。	⑥	A			
		地域の協力を得ていじめの対応等ができた。	⑥	B			
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関に相談できた。	⑥	A			
	学校以外の場で起きたいじめに適切に対応できた。	⑥	A				
教職員研修について	実践的研修を行うことができた。	⑥	A				
	事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図ることができた。	⑥	A				
	インターネット環境等に関する研修を行うことができた。	⑥	B				

進路指導	人間としての在り方生き方の指導の一層の充実。	ガイダンス機能のより一層の充実を図る。	③⑦	B	B	個々の生徒の意識の差が大きいため、すべての行事に意味を持たせることは困難である。日常の中での会話に進路に対する意識の醸成を図る言葉が折り込まれるとよい。
	望ましい職業観・勤労観の形成と主体的な進路選択能力の育成。	自らの意思で、進路を主体的に選択する態度を育成する。	③⑦⑧	B		
		インターンシップや進路講演会を通して、職業選択や職業適性について考えさせる機会を与える。 進路相談の計画的・継続的な実施。	⑦⑧	B		
	学年間での情報の共有。	各学年での取り組みについて情報の共有化を図る。	⑦	B		
保健厚生	心身の健康に対する意識を高める。	保健便りや保健ニュース等の掲示により、情報を提供する。 教科「保健体育」と連携し、防止教室や性に関する講演会を実施する。	③④	B	B	来年度も各種講演会を実施し、生徒の啓蒙を計りたい。
	校内環境の整備・充実を図る。	ゴミの分別処理を徹底し、トイレや手洗い場等における衛生管理の維持改善を図る。	③	B		
		安全対策の強化に努める。	校内美化日を計画し、学習環境を整備する。 緊急対策マニュアルを周知徹底する。 危機意識を高め、安全確保につながるように避難訓練の内容を工夫する。	③④	B	B
図書	図書室の資料の充実に努める。	幅広い蔵書構成を考えながら、資料の充実を図る。 職員・生徒の希望図書を購入する。	③	A	B	書庫の図書の整理は、古本市などして少しずつ整理していきたい。 定期的に各種統計を作成し、生徒の読書意欲を高めていきたい。
	視聴覚資料の収集・整理・保管に努める。	視聴覚教材を整理し、さらに授業や学校行事等で使用するビデオ・DVD等を購入し使いやすく提示する。	②	B		
	読書に興味関心を持たせるような指導に取り組む。	校内読書感想文コンクールを実施する。	③	A		
		上記コンクール入選者の表彰および入選作品集を作成する。	③	A		
	図書委員会活動の活性化に努める。	カウンター作業や書架の整理をする。	⑧	B		
		各種統計を作成する。	⑧	B		
		図書室の広報活動に取り組む。	図書館報、図書館だよりを発行する。 新規購入図書や各種統計を掲示する。	⑧		
渉外	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	各行事に創意を加え、参加保護者の定着と意欲向上をはかる。	⑪	B	B	次年度ではPTA総会のあり方について、よりよい形で実施できないか検討する。スムーズな役員選出の方法を模索したい。  PTAの出張が多いので、検討のうえ精選したい。
	継続的な重点行事を掲げその充実を図る。	PTA総会とPTA総会に携帯安全教室が同時開催となったため、保護者と職員の負担が増してしまった。内容の精選・充実を図り、負担軽減策を検討する。	⑪	B		
	教職員と保護者の連携を密にし、生徒の健全育成を支援する。	PTA総会や支部活動、PTAだよりなどで保護者と教職員間の連携を図る。	⑥	A		

特別活動	生徒会活動を活発に行うようにする。	「さわやかマナーアップ」運動の取り組みとして、朝の立哨指導に参加させる。	③⑥	A	B	次年度は、生徒がさらに学校行事運営に自主的に関わられるよう、行事の事前アンケートを実施したり、綿密に生徒会や委員会等を計画していく。	
		学校行事の運営に積極的に携わるとともに、意見交換の場を多く設ける。	③⑥	B			
	望ましい集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	文化祭で生徒の発表の機会を設け、全生徒が参加出来るよう工夫する。	③	A	B		ボランティア体験が一部の生徒だけに留まっているので、地域主催の活動情報を提供していきたい。
		年3回の空き缶分別作業や地域社会でのボランティア、募金活動に積極的に参加させる。	③	B			
部活の推進をはかる。	部活動紹介を通して、部活動への参加を働きかける。	⑤	B	B	継続して部活動への参加を促すアナウンスに努める。		
農場	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	インターンシップを通して望ましい勤労観・職業観を養成し、働く喜びを感じさせる。	⑨⑩	B	B	インターンシップ受け入れ先農家が雨でも対応してくれるよう普及センターとの連携を密にする。	
	特色ある施設・設備を生かし、実験実習の充実を図る。	生徒一人一人の能力に応じた実験・実習を展開し、興味関心を高め、基礎的な知識・技術の習得を図る。	①②③	B	B	生徒の能力が低下してきているため、授業方法の研究に努め基礎学力の向上を図り、学習意欲高める工夫をする。	
	学校農業クラブ活動を充実させることにより、各種の行事で活躍できる生徒を育てる。	各科目において自らの目標をもち、自ら課題を解決しながら自ら学ぶという姿勢を身につけさせる。	①⑧⑨	B	B	より生徒の個別面談の充実を図り、農業クラブ活動を通して進路意欲を高め、進路希望の実現に力を入れる。	
事務	会計の効率的で適正な執行	教科指導や学校行事等の教育活動全般において、業務が円滑に進められるよう、適時に効果的な予算執行が行えるように努める。	③⑦⑧	A	A	教科指導等の教育活動が円滑に行えるよう年間を通して効果的な予算の執行に努めてきた。また、限られた予算の中で安全な教育環境の保全に努め、有効活用できるよう支援することができた。引き続き、効率的な予算の執行に努めていきたい。	
		節電・節水に努め、使用量の減に伴う光熱水費の削減を図るとともに、限られた予算の有効活用に努める。		B			
	開かれた学校づくりへの取組	電話での応答や来校者への窓口対応など丁寧な接客を心がける。	⑪	A	A		
		学校行事等の広報に努める。	⑪	B			
	学校施設・設備等の適正な管理及び利活用	教育活動のための安全な教育環境を保持することを目的とし、学校施設・設備を適切に管理するとともに、有効利用できるよう支援する。	⑦⑧⑪	A	A		

1年次	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を身につけ、はじめのある行動をとれるようにする。	④⑤	A	A	授業、休み時間、清掃活動などその場にふさわしい態度や時間管理ができるようになってきた。 放課後や長期休業時に課外授業の実施、宿題の配付を行うなど支援を行ってきた。次年度もさらなる基礎学力の定着と応用力への段階移行を図っていきたい。 全校集会や年次集会、各種講演会などにおいて私語などせず人の話を聞くことができたり、授業開始や移動時間など職員を始め来客者に対しても、しっかりと挨拶ができる生徒が大半を占めている。この姿勢を次年度にも継続できるよう指導を続けていき		
		基礎学力の定着を図る。	①②	B				
		挨拶、返事を心がけさせ、人の話をきちんと聴く態度を養う。	⑤	A				
	潤いのある人間関係の構築	集団の中で、全体に貢献する態度を身に付けさせるとともに、そのことを通して自己の長所に気付かせる。	④⑤	A			B	クラスの問題を生徒個々の問題としてとらえ、解決するための方策について考え、実装することができるようになってきた。 「自分にされて嫌なことは他人にしない」を集会や授業のたびに訴え、他人に迷惑をかけない生活が送れるように指導してきた。継続指導したい。
		思いやりのある心を身に付けさせ、豊かな心を育む。	⑥	B				
主体的な高校生活の確立	やらなければならないことには最後まで確実に取り組み、責任感と学校生活に前向きに取り組ませ、よりよく生活しようという態度を養う。	⑤ ⑤⑥	B A	B	教員からの指示を受けてやるべきことを終える生徒が多かった。指示を受けなくとも自主的に取り組めるよう指導を継続したい。			
2年次	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を身につけ、はじめのある行動をとれるようにする。	④			A	A	進路実現を意識した基本的な生活習慣の確立を目指し、生徒・保護者、教員間での連携を密にしながら家庭学習や課外学習、進路教育等、更なる支援の工夫を努めていきたい。 次年度、最高学年としての自覚や責任感を持たせ、生徒の細かな変化に気づけるよう努め、最後まで充実した学校生活を送らせることができるよう努める。
		基礎学力の定着を図る。	①	B				
		挨拶、返事を心がけさせ、相手の話をきちんと聴く態度を養う。	⑤					
	潤いのある人間関係の構築	修学旅行など特別活動の機会を利用して、集団の中で全体に貢献する態度を養い、社会のルールやマナーを身に付けさせる。	⑤⑧	A	A	生徒の自尊心を育てられるよう、個人面談等を中身の濃いものにできるよう努める。 精神的な理由で遅刻や欠席、早退をする生徒へ対応するため、年次内外の連携を高め、常に全体で生徒の変化や実態の把握・対応に努める。		
		思いやりのある心を身に付けさせ、豊かな心を育む。	⑥	A				
	進路実現へ向けての技術や能力を身に付けさせる。	キャリア教育をとおして、職業観の形成や学習意欲の向上、また社会人としてのマナーを会得させると共に勤労の大切さを実感させ、積極的な進路選択の一助とする。	⑩	A	A	特別活動やキャリア教育など、生徒に目的意識をしっかりと持たせられるよう工夫し、組織として連携に努めたい。 個別面談の質を高めるなど有効活用を努め、生徒の自己理解及び自己実現に努めたい。 問題意識を学年団のみで共有するのではなく、各分掌や各教科との連携を図り、より多くのことを生徒に還元できるよう努めたい。		
面談等を活用し、生徒の個性に応じた適切なアドバイスを実施し、進路を開拓する能力を育む。		⑤⑨	A					
3年次	基本的な生活習慣の確立	進路実現に向け、服装や頭髪、言葉遣い等について生徒に繰り返し指導する。	④	A	A	進路指導部と連携を図りながら丁寧な指導を心掛け、生徒の進路実現に対する意識高揚を図ることができた。 また、最終年次として非常に積極的かつ主体的に学校行事に参加しようとする生徒の姿勢が見られた。		
		保護者との連携を密にして生徒理解に努めると共に、最終年次として積極的に学校行事等に参加させ、充実した学校生活を送らせる。	⑧⑨	A				
	進路に応じた学力の向上	検定・資格試験・模擬試験に挑戦することにより学力の向上を図る。総合学習の時間を利用し、ビジネスマナー等の実践力を養う。	⑩	A	A	外部講師を招くなどして、社会人としての心構えやビジネスマナーについて様々な視点から学習することができた。		
		希望進路の実現	検定・資格試験に合格することにより進路実現の一助とする。総合学習の授業を通し、社会人としての基本的な知識を身につけ	⑩			B	A
	二者・三者面談を通して適性に応じた進学先・就職先を決定する。		⑨	A				

国語科	国語を的確に理解する能力を育てる。	漢字力を養成するために、授業において計画的・段階的な指導を行う。	①	A	A	生徒の現状に応じた授業展開を心がけることを継続する。
	言語感覚を磨き、意思を伝える能力を育てる。	個々の生徒が、意見・感想を書くことができるような表現指導を行う。	①	A		
	思考力や考え方を深め、心情を豊かにする態度を育てる。	多くの作品に親しむことにより、多様な価値観に気づかせる。	①	A		
地歴・公民科	生徒の学力に応じた分かり易い授業展開する。	授業計画は都度都度見直して、生徒の実態に合わせて柔軟に変更する。	①②③	A	B	内容理解の前提となる復習事項を取り入れながら、無理のないペースで学習を進めることができた。生徒が授業に参加するために画像や映像を積極的に取り入れ、各教員で工夫し授業を実施することができた。
		授業終了後、指導内容・方法について点検し、改善すべき点を考える。	①②	B		
	基礎学力の向上を推進する。	授業内容を基礎的・基本的事項に精選し、丁寧な解説を通じて確実に理解させる。	①②	A	A	小テストや課題プリント・定期考査前の補講を通して、生徒の基礎学力を向上させることができた。教室内のスクリーンを用いたり、映像教材を用いることが、生徒の興味関心を高め授業内容のより深い理解につながった。
		練習問題プリント等を利用した復習を行い、学習内容の定着を図る。	②③	A		
		定期考査の前には総復習を行い、考査後は定着度の低い部分について再度解説して学習させる。	②③	A		
		視聴覚教材の積極的な利用を通じて、ビジュアルな形での理解を図る。	①③	A		
	生徒が学習内容をより具体的に把握できるように、授業方法の改善に努める。	教科内の相談を密にし、授業内容・方法について互いにアドバイスし合う。	③	A	A	教科内の構成員が少ないため、連絡や情報交換は密に行えた。学外の研修会にも数回参加し、新たな知見を得る機会を作れた。次年度以降の授業に活かしていく。
様々な機会を利用して自己研修に努め、その成果は教科会で互いに情報交換する。		②③	A			
年数回、教科全員で学校内外での研修会を企画し実施する。		②	B			
数学科	基礎学力の定着	基礎学力検査の結果を利用し、習熟度別授業や個に応じた指導を行う。計算プリントを実施し、基礎計算能力を向上させる。	②③	B	A	計算プリントの実施状況や出来具合を教員間で共有する仕組みを構築する。また、その結果を習熟度クラス編成に役立てて生徒の理解度に応じた授業を実現する。
		基礎学力検査の内容を見直し、生徒の能力を正確に分析する。	③	A		
		習熟度別授業および系列別の授業において、机間指導を増やして個に応じた指導を行う。必要に応じて、数学を得意とする生徒の力を伸ばす指導を行う。理解が不十分な生徒に対しては、補習を実施し、理解度の向上を図る。	①②	A		
		長期休業中の課題に加えて、定期課題を課す。提出物の機会を増やし、こまめに生徒の学習状況を把握する。	②③	A		
	数学が分かる喜びを実感する授業への取り組み	1年次のティームティーチングの授業においては、2人の教師の連携を密にし、協力して授業を実施する。机間指導の分担や流れを確認し、多くの生徒に対する適切な指導を図る。	②	A	A	教務部等と連携し、数学検定の受検に向けた具体的目標を立てて生徒に周知する。また、授業の内容を精選して検定とリンクさせることで生徒の数学検定への意識を高める。
授業内に数学検定の問題や就職試験の問題を取り扱うことで、生徒の意欲を向上させ、検定試験合格や就職内定に向けて適切な指導を行う。		③	A			

理科	知的好奇心や探究心を喚起し、自然に関する興味・関心を養う。	授業の展開に創意工夫をこらし、魅力ある教科指導に努める。	②③	A	A	・身近な現象等に触れながら授業を進め、生徒の自然に関する興味関心を高めた。 ・映像教材や模型を活用し、分かりやすい授業の展開を図った。
	科学的に自然を調べる方法や技術を身に付け、問題解決能力を養う。	観察・実験を適切な時期に行い、かつ事前指導や考察の時間を十分に取るようにする。 生徒が自分の意見や考えを検証したり、発表したりできる機会を適宜設ける。	①	A	B	・観察・実験を適宜取り入れ、生徒が体験的に学習できるよう授業を展開した。 ・アクティブラーニングの手法を活用し、生徒が自ら考察したり、意見を発表したりする時間を充実させていきたい。
	自然に関わる基礎基本的な知識を身に付け、科学的な自然観を育成する。	重要事項をおさえ、必要に応じて反復練習や小テストを取り入れ、基礎基本の徹底を図る。 基礎基本から、自然を統合的にみる見方や科学的なものの見方を養えるよう、分かりやすく授業を展開する。	②	A		A
英語科	基礎学力の定着を図る	スペリングコンテストや生徒個別の音読テストを実施するなど、基礎学力の定着を図る。 習熟度別を併用した少人数授業を展開し、個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。	①	A	A	次年度も、生徒個々の能力に応じた授業展開をし、基礎学力の定着を図る。
	英語が分かる喜びを実感する授業の展開に努める	ALTとのティームティーチングを活用し、英語に興味・関心を抱かせる授業の創意工夫に努め、コミュニケーション能力の育成を目指す。 教師間の連携を密にして、生徒の進路に応じた指導法、教材を工夫改善する。	②	A		
	資格取得の充実を図る	英検取得に向けて、級別または個別に課外を実施し、計画的・段階的な指導を行う。	①	A	B	次年度は、さらに生徒へ資格取得を促し、1年を通した課外指導にあたる。
家庭科	基礎的な知識と技術の向上を図る	個々の能力に応じた授業の展開と基礎学力の定着。	③	A	A	生徒の実態に即した教材の精選。 技術検定の資格取得に向けて、より効率的で、きめ細かい指導を展開する。
		学習教材を精選し、生徒の興味・関心を高め、積極的な授業への参加を促す。	②③	A		
		技術検定の受験により、食物調理、被服製作及び保育における資格取得の充実を図る。	③	B		
	実験実習による興味・関心の育成	生徒の実状に合わせた実験・実習を通じて、衣生活、食生活、保育などの基礎的な知識と技術を習得させる。	①②③	A		
問題解決学習の充実	ホームプロジェクトの実施により、生活分野における実践力の向上に努める。 環境・資源等の社会問題に対する知識と理解を深め、問題解決能力を養う。	③⑩	A	A	環境問題やホームプロジェクトの実施にあたっては、具体的なテーマを提示しながら、生徒の実生活に即した内容で問題解決を図る。	
		③	B			

保健体育科	基礎体力の向上を図る。	体力トレーニングを継続的に実施し、生徒の体力向上に努める。特に、必修種目については、生徒及び保護者に周知し完全実施に努める。	②③	A	A	次年度についても、生徒の体力向上を目指し、体力トレーニングを継続的に実施する。また、生徒の体力レベルを考慮し、必修種目についても、引き続き実施していく。 球技大会などの学校行事とも関連付けて、生徒の意欲を喚起しながら授業に取り組みせることに努める。
		生徒の体力に合わせ、運動時間の確保に努める。	①②	A		
	集団行動の充実を図る。	集合、整とん、列の増減、方向変換、挨拶等を継続的に指導し、集団行動に対する意識を高める。	②③	A	A	集団生活の基盤をつくるため、次年度についても引き続き集団行動に対する意識向上に努め、その指導にあたる。
	基本的な生活習慣の確立を図る。	健康の保持増進についての知識を学び、実践力の育成に努める。	①② ③	B	B	生徒に身近な情報を提供しながら、できる限り生徒の実践に結びつく授業を心掛ける。
芸術科	基礎学力の向上を図る。	生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫を行う。	②	A	B	生徒一人ひとりの能力に応じた授業展開を努めるとともに、表現の意欲を高めるような授業の創意工夫を進める。
		生徒が自主的に取り組む指導を図る。	③	B		
	感性と技術の向上を図る。	芸術における基礎・基本を身に付けさせ、感性を育てる。	②	A	A	
	魅力的な授業の展開を図る。	生徒を引きつける魅力的な授業の展開を図る。	③	A	A	
	資格取得の充実を図る。	硬筆検定・毛筆検定等の資格取得に向け、指導・助言を充分に行う。中学校での学習の程度を踏まえ、生徒のレベルに伴った指導を行う。	③	A	A	
情報科	情報機器の基礎的な知識と技術を高める。	実践的な実習を通して、基本的な情報機器活用の技能を習得させる。	①	A	B	個に応じた丁寧な指導に努め、検定試験をさらに効果的に利用し基礎的な知識と技術の習得を図る。
	情報を主体的に活用する態度および実践力を育てる。	情報通信ネットワークの適切な活用を積極的に取り入れる。	①	B		
	情報社会に参画する意欲の向上を図る。	情報モラルと情報セキュリティ意識の育成を目指す。	③	A	A	生徒の主体的・対話的な学習に努め、理解の深化を図る。 情報システムの具体的な利用例をを活用した授業を展開するとともに、授業形態に工夫を凝らし、生徒の興味関心を高める。
商業科	基礎・基本的な学力の向上を図る。	小テストを行い、学習の理解度を把握し、基礎的基本的な知識の向上に努める。	①	A	A	個に応じた教材・教具を用い、興味関心を高めさせ基本的な知識の向上に努める。
		興味・関心の持てる教材を活用し、分かりやすい授業展開に努める。	①②	A		
	商業人として社会に通用する能力を育てる。	身近な話題を取り組む授業を展開し、学習内容の理解を深めさせる。	①②	A	A	基本的な知識を基に、創造力を高めさせるとともに、人としての在り方について考えさせる。
		ビジネスを学ぶ人間として、社会のモラル・ビジネスマナーの高揚を図る。	①	A		
	資格取得を支援する。	資格取得に対する意識付け等、資格取得に向けた指導を行う。	①③	A	B	個々の生徒に対する、段階的・継続的な指導計画を立て、確実なスモールステップを図る。
		補習等を行い、検定に合格できる能力を養う。	①②	B		
判定基準	A:大変良くできた      B:良くできた      C:やや不十分      D:不十分					